「辺田（はざた）」さん

函館市医師会
函館市医師会健診検査センター
水関（みずせき）　清（きよし）

六度目の年男を迎える年齢になって、初めて正しい画数が分かった部首がある。「辶」が、それである。三画だと思い込んでいた「しんにょう（または、しんにゅう）」の正しい画数は、七画。なぜなら、「辶」の正字である「辵」は、「辵部（ちゃくぶ）」という部首のひとつで、道路を表す「彳」の下に足を表す「止」を組み合わせた会意文字であるからだという。では、「しんにょう」は何かというと、複数の部分から成る漢字（例：「花」など）を構成する要素である「偏旁」（例：「花」の中の「艹」「化」）のひとつであるという。そして、特に左から下にかけて配置される形を「繞（にょう）」ということから、「辶」を「しんにょう」と呼ぶらしい。そして、足跡（止）と道（辶）を組み合わせた会意文字である「辵」は、「歩み進む」様子を表し、これをもとに「速」は、「辵＋束」で「はやい・すみやか」を、「道」は、「辵＋首」で「みち・どうろ」をそれぞれ意味するという。

では、「辵＋口」ならどうだろうか。旧知の友人の娘さんが結婚されて夫君の姓を名乗ることになり、渡された名刺にあったのが「辺田」であった。「はざた」というふりがながつけられていた。姓名と地名は文化の化石である、という金言に従って、「辺田」さんのご先祖のお住まいについてお尋ねしたところ、山がそばにある平野部、というお返事であった。

早速、手元にある漢和辞典を当たってみたが、三画の部首に「辶」はなく、先述のような調べを余儀なくされた結果、正しくは七画ということが分かったが、肝心の「辺」という文字は収載されていない。図書館に行って調べを継続した。大漢和辞典、新大字典、大字源、いずれにも収載されていない。姓名に用いられていることから、国字ではないかと思い当たって調べ直したところ、新潮日本語漢字辞典（2007年９月25日発刊）に、以下の記載があった。

「国字。はざ。「辺田」は姓氏の一つ」

スマートフォン全盛の時節柄、メールや通信販売を利用する時には、さぞかしご苦労なのではないかと思い、PCで「はざ」を検索してみると、意外なことにあっさり「辺」の項にたどりついた。その基本状況として、画数は６画、訓読みは「はざ、はさ」、意味は「姓氏に用いられる字。例：辺田（はざた・はさだ）」、種別は国字、JISは第４水準、「辺は、部首は辵部に属し、画数は６画、漢字検定は配当外の漢字です。読み方には、はざ / はさなどがあります」という記載のほかに補足として「この字は環境依存文字のため、ご利用の環境（パソコン・スマートフォン・ブラウザなど）によって、表示される字形が異なる場合があります。」と、簡明にして適切なものであった（漢字辞典オンラインhttps://kanji.jitenon.jp Accessed on 2026-1-10）。

一般には「山と山の間の狭隘な低地」を「ハサマ」とか「ハザマ」と呼ぶとされ、直ちに連想されるのは「桶狭間の合戦」である。1560年６月12日（永禄３年５月19日）昼頃からの雷雨の中、現在の「おけはざま山」付近に布陣した今川義元軍を、織田信長軍が急襲したという故事にちなむ場所である桶狭間は、知多半島の付け根付近にあたり、「猿投－知多上昇帯」と呼ばれる緩やかな丘陵地帯にある。戦いの主戦地とされたのは、標高40メートル台の山々と谷底平野が複雑に交錯する広範囲な地域の景観をもって「ハサマ」と呼ばれたであろうことにうなずける場所であった。

ここで、「辺」という国字のことを考えてみたい。まず「偏旁」的にみると、「辵＋口」とに分解されることから、「辶」と組み合わされた「口」の意味するところは何だろう。「辺田」が「辺」と「田」とを組み合わせた姓であることを考慮すれば、水田や耕作地が連想される。そう仮定すれば、「辶」は「道」、「口」は畑などの耕作地や、池や水田のあるような平地を意味するのだろうか。

「ハサマ」が地名に縁が深い言葉であることから、全国各地での分布について探ってみたい。千葉県船橋市には「飯山満（はさま）」という地名があり、東葉高速鉄道には「飯山満駅」という難読駅が設けられている。長野県中野市豊津には「硲（はさま）」という、千曲川畔の集落がある。近くには千曲川展望地とJR東日本の飯山線が敷設されているが、この付近の千曲川蛇行は著しく、河の流れがΩ型になってこちら側の岸を削るあたりに「硲（はさま）」集落がある。長崎県五島市三井楽町は福江島の西北に位置するが、そこの海岸線近くに波砂間（はさま）という集落がある。海岸線から少し入った段丘面には棚田が密集し、その背後には山が聳えており、まさに「海岸と山の間の狭隘な低地」である。

次に、「ハザマ」はどうだろうか。兵庫県川辺郡猪名川町上阿古谷には波座麻（はざま）という集落がある。伊丹空港に近い阪急電鉄宝塚線の蛍池駅から３つ目の川西能勢口駅から能勢電鉄妙見線に乗り換え、さらに山下駅から猪名川町域に至る日生線で日生中央駅に至ると、南部地区にある３つの大きなニュータウンを過ぎて、両側から山の迫る谷間を行くとたどり着く、まさに山の「ハザマ」にある。高知県香美市土佐山田町には一文字で間（はざま）と読ませる集落がある。物部川（ものべがわ）が高知平野へと流れ出る扇状地に近い山間にあり、鍾乳洞で知られる観光地・龍河洞にほど近い。集落は、一文字で間（はざま）というだけあって、東西に小河川が流れ出す山ひだの頂部にあり、西に広がる扇状地を見下ろす立地にある。

「ハサマ」も「ハザマ」も、先人たちが苦労して切り開いたであろう厳しい立地ばかりである。そしてこれらは、「辺田」さんという珍しい姓から、学ばせていただいたことなのである。